

# 調査の概要

## 1 調査目的

本調査は県民の価値観や行動志向、行政への評価・要望など、県民生活の基本的な意識の経年変化を大きな潮流として捉えることにより、政策形成、施策運営の基礎資料を得ることを目的としている。

今回は、年次テーマを「少子・高齢社会における質の高い生活の実現に向けて」とした。少子・高齢社会に対する県民の意識や課題、ニーズ等を把握することで、「新ひょうご子ども未来プラン」推進の基礎資料とするとともに、幅広く少子・高齢社会対策の検討に活用する。

## 2 調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 5,000人
- (4) 調査方法 郵送法（ハガキによる督促1回）
- (5) 調査時期 平成21年10月9日～10月26日
- (6) 県民意識調査委員会

設問作成にあたり、県民意識調査委員会を設置して、下記の学識経験者から指導・助言を得た。

立木 茂雄 （同志社大学 教授）

鳥越 皓之 （早稲田大学 教授）

森 茂起 （甲南大学 教授）

吉田 三千代 （(株)サンケイリビング新聞社 企画開発部長）

[五十音順]

## 3 回収結果

回収数 2,842件（56.8%）

地域	標本数	回収数	回収率	無効票	有効回答
神戸	500	263	52.6%	5	258
阪神南	500	257	51.4%	3	254
阪神北	500	281	56.2%	2	279
東播磨	500	260	52.0%	3	257
北播磨	500	284	56.8%	4	280
中播磨	500	258	51.6%	1	257
西播磨	500	315	63.0%	5	310
但馬	500	333	66.6%	7	326
丹波	500	287	57.4%	4	283
淡路	500	287	57.4%	5	282
地域不明	-	17	-	17	0
全県	5000	2,842	56.8%	56	2,786

無効票は地域不明、集計後到着など

#### 4 標本抽出および集計方法

- (1) 母集団 住民基本台帳（H21.3.31）に記載された県民数に、外国人登録者数から推計した外国人県民（成人）数を加えたものを母集団とした。
- (2) 標本配分 地域ごとに500の標本数を都市規模別母集団構成比に応じて配分（合計5000人）した。  
なお、外国人県民については、市区町ごとに、母集団（日本人+外国人県民）における外国人県民比率を計算し、各市区町の合計標本数（日本人+外国人県民）に、外国人県民比率を乗じ、外国人標本数を算出した。
- (3) 抽出方法 層化無作為抽出法
  - ・住民基本台帳（H21.3.31）に記載された県民数を母集団数とし、10の地域毎に500の標本数を市町別・男女別・年齢10歳階級別の母集団構成比に応じて配分した。
  - ・各地点における対象者の抽出は、住民基本台帳（一部の市町は選挙人名簿）から等間隔抽出法で抽出した。
  - ・外国人県民については、市区町ごとに外国人録名簿等から無作為抽出した。
- (4) 集計方法 地域ごとの回収数について、全県内の母集団構成比を復元するよう重み付け集計をした。

#### 地 域 区 分



県民局	該当市町
神戸	神戸市
阪神南	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
中播磨	姫路市、神河町、市川町、福崎町
西播磨	相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
丹波	篠山市、丹波市
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市

## 5 回答者のプロフィール

### 性別 (%)

	男性	女性	不明
全県	44.8	55.0	0.2
神戸	43.8	55.8	0.4
阪神南	46.9	53.1	0.0
阪神北	46.6	53.0	0.4
東播磨	42.8	57.2	0.0
北播磨	45.7	54.3	0.0
中播磨	44.0	56.0	0.0
西播磨	45.2	54.2	0.6
但馬	44.2	54.9	0.9
丹波	44.9	55.1	0.0
淡路	42.2	56.7	1.1

### 年齢 (%)

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳
全県	4.7	4.3	6.6	9.0	8.4	7.6	8.7
神戸	5.8	3.5	4.3	10.5	9.7	8.1	6.2
阪神南	5.9	3.5	12.2	6.3	9.8	5.5	10.2
阪神北	2.9	3.2	5.7	12.5	6.1	10.0	7.9
東播磨	5.8	5.8	6.6	7.0	7.0	7.4	10.9
北播磨	1.8	5.0	6.1	8.9	6.4	7.1	10.7
中播磨	3.5	6.6	6.2	11.3	9.3	7.4	8.6
西播磨	2.9	6.1	5.5	7.4	8.1	7.1	9.7
但馬	2.1	4.0	4.9	5.2	6.1	8.6	9.5
丹波	5.3	3.5	4.2	7.1	7.1	6.0	8.5
淡路	3.9	2.8	6.0	7.1	5.7	7.4	11.7

	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	不明
全県	8.7	11.6	9.9	8.3	5.3	6.7	0.3
神戸	8.9	13.6	10.9	7.8	4.3	6.2	0.4
阪神南	5.9	11.8	7.1	9.1	4.3	7.9	0.4
阪神北	10.0	7.9	12.5	8.2	6.8	5.7	0.4
東播磨	9.3	11.7	9.3	8.9	4.3	5.4	0.4
北播磨	10.0	11.1	9.3	7.9	8.2	7.5	0.0
中播磨	8.6	9.3	10.9	5.8	6.2	6.2	0.0
西播磨	8.7	14.2	11.0	7.1	7.4	4.5	0.3
但馬	11.3	10.1	8.6	11.0	6.7	11.3	0.3
丹波	9.9	10.6	9.2	12.0	6.7	9.2	0.7
淡路	8.5	15.6	6.0	10.3	4.6	9.2	1.1

年 齢〔再 掲〕 (%)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	不明
全県	9.0	15.7	15.9	17.4	21.5	13.6	6.7	0.3
神戸	9.3	14.7	17.8	15.1	24.4	12.0	6.2	0.4
阪神南	9.4	18.5	15.4	16.1	18.9	13.4	7.9	0.4
阪神北	6.1	18.3	16.1	17.9	20.4	15.1	5.7	0.4
東播磨	11.7	13.6	14.4	20.2	21.0	13.2	5.4	0.4
北播磨	6.8	15.0	13.6	20.7	20.4	16.1	7.5	0.0
中播磨	10.1	17.5	16.7	17.1	20.2	12.1	6.2	0.0
西播磨	9.0	12.9	15.2	18.4	25.2	14.5	4.5	0.3
但馬	6.1	10.1	14.7	20.9	18.7	17.8	11.3	0.3
丹波	8.8	11.3	13.1	18.4	19.8	18.7	9.2	0.7
淡路	6.7	13.1	13.1	20.2	21.6	14.9	9.2	1.1

職 業 (%)

	職業別								
	自営業	正規社員 (職員)	会社等の 役員	契約・ 派遣社員	パート・ アルバイト	主婦 (主夫)	学生	その他 無職	不明
全県	10.3	28.4	2.6	4.7	11.4	18.3	1.9	21.5	1.1
神戸	8.9	28.3	2.7	5.4	10.5	18.6	1.9	22.1	1.6
阪神南	9.1	33.1	2.8	5.1	9.4	20.5	2.4	17.7	0.0
阪神北	8.6	27.6	2.9	3.2	13.6	20.4	1.1	21.9	0.7
東播磨	8.9	26.8	1.6	6.2	10.5	21.4	1.9	21.4	1.2
北播磨	14.6	27.1	2.9	3.6	13.6	11.1	0.7	25.0	1.4
中播磨	9.3	26.5	2.7	3.1	13.2	19.1	3.5	21.4	1.2
西播磨	10.0	28.7	2.9	2.6	14.5	12.9	1.3	25.8	1.3
但馬	19.6	26.4	1.5	4.0	9.8	11.3	0.9	23.6	2.8
丹波	19.8	24.4	1.8	5.7	13.1	8.8	1.1	25.1	0.4
淡路	22.7	22.0	3.2	5.3	11.3	12.4	1.1	19.9	2.1

世帯構成 (%)

	1人世帯	夫婦だけ (1世代)	親と子ども (2世代)	親と子と孫 (3世代)	その他	不明
全県	7.9	21.9	51.9	15.8	1.6	0.8
神戸	10.1	20.2	54.7	12.4	1.2	1.6
阪神南	11.0	24.8	52.8	10.6	0.8	0.0
阪神北	5.7	24.0	52.7	15.1	2.5	0.0
東播磨	5.8	28.0	53.3	11.3	1.6	0.0
北播磨	5.4	19.3	46.1	25.4	3.2	0.7
中播磨	4.7	16.0	53.3	21.8	2.3	1.9
西播磨	7.7	21.3	45.2	22.3	2.6	1.0
但馬	6.4	16.6	42.6	32.2	1.5	0.6
丹波	7.1	17.7	39.6	32.9	1.1	1.8
淡路	5.3	20.9	44.7	26.6	1.8	0.7

家族構成 (%)

	乳児	幼児	小学生	中学生	高校生	大学(院)生	65歳以上の 人	該当者なし	不明
全県	2.2	10.2	12.7	8.9	8.8	10.7	51.4	23.0	1.2
神戸	2.3	8.5	11.2	9.7	9.3	13.6	46.5	24.0	1.2
阪神南	2.8	12.6	10.6	7.5	6.3	9.8	45.3	25.6	0.8
阪神北	0.7	6.5	11.5	8.2	9.7	7.9	55.2	25.4	1.1
東播磨	1.9	10.9	10.9	5.1	6.6	11.7	45.5	27.2	1.2
北播磨	2.9	11.1	17.5	9.3	10.0	7.1	63.2	18.6	0.4
中播磨	2.7	12.1	16.0	11.3	10.9	12.8	56.4	16.7	2.7
西播磨	1.6	10.6	16.8	11.9	9.7	8.4	59.0	18.4	1.3
但馬	1.8	12.3	19.6	12.3	11.0	6.1	68.1	18.1	0.6
丹波	3.9	13.1	17.3	12.4	11.3	7.1	70.0	13.8	2.1
淡路	2.5	9.9	13.8	9.2	9.6	7.1	64.5	16.0	1.4

居住年数 (%)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上5 年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	不明
全県	2.4	5.7	6.0	11.4	15.5	8.2	50.3	0.5
神戸	2.7	4.7	6.6	13.2	20.2	8.5	43.8	0.4
阪神南	2.0	10.2	9.8	15.7	18.1	5.1	39.0	0.0
阪神北	1.8	6.8	5.4	11.5	16.1	8.6	49.1	0.7
東播磨	3.5	5.1	6.2	8.6	12.8	11.7	51.8	0.4
北播磨	0.7	4.3	4.3	6.4	10.0	9.3	65.0	0.0
中播磨	3.9	4.3	2.3	9.3	13.6	8.2	57.6	0.8
西播磨	2.3	3.9	2.9	8.7	6.8	10.0	64.5	1.0
但馬	0.6	2.1	2.8	7.1	7.4	5.5	73.3	1.2
丹波	0.7	1.8	3.9	6.4	6.4	7.8	73.1	0.0
淡路	1.4	2.5	3.5	6.7	11.3	7.4	65.2	1.8

未既婚 (%)

	既婚 (配偶者あり)	既婚 (離別・死別)	未婚	不明
全県	72.3	10.4	16.5	0.7
神戸	69.8	10.1	19.0	1.2
阪神南	72.0	10.6	16.9	0.4
阪神北	72.8	10.0	16.8	0.4
東播磨	73.5	9.3	16.3	0.8
北播磨	76.4	10.0	12.5	1.1
中播磨	75.5	8.2	16.0	0.4
西播磨	73.5	13.9	12.3	0.3
但馬	70.9	17.2	11.0	0.9
丹波	70.0	15.2	14.1	0.7
淡路	75.2	11.3	12.4	1.1

## 6 標本誤差

世論調査で無作為抽出法をとった場合は、数学的に標本誤差を計算することが可能であり、誤差の幅はサンプル数と得られた結果の比率などによって異なる。

今回の調査のサンプル数についての標本誤差の幅は、以下のとおりである。

誤差の算出式

(層化抽出、信頼度 95%の場合)

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \cdot \frac{P(100 - P)}{n}}$$

\* N : 母集団 n : 回答者総数 P : 回答比率 (%)

例：サンプル数 2,786の場合

回答比率 (%)	10% (または90%)	20% (または80%)	30% (または70%)	40% (または60%)	50%
誤差(%)	±1.14	±1.52	±1.74	±1.86	±1.89

## 調査結果のまとめ

### 1 少子・高齢社会に対するイメージ

理想の子どもの数は、「3人」(50.1%)が半数を占め、これに「2人」(36.6%)を合わせると8割台半ば(86.7%)になる。

高齢者と思える年齢は、「70歳以上」(46.3%)が半数近くを占める。

少子・高齢社会に対するイメージは、「どちらかといえば暗い社会」(50.6%)が5割に及び、これに「暗い社会」(22.2%)を合わせた『暗い社会』(72.7%)のイメージは、7割を超える。

理想とする少子・高齢社会の姿は、「健康で安心して暮らせる」(74.1%)が7割台半ばと最も多く、「多世代が交流し、助け合う」(52.5%)が5割強、「満足いく行政サービスが受けられる」(38.9%)が4割弱で続く。

### 2 少子・高齢社会におけるライフスタイル

少子・高齢社会での生活で重視する取組について、『重視する』(「重視する」と「少し重視する」の合計)が最も多いのは、「健康づくり」(91.3%)で9割を超え、「趣味」(73.0%)、「家事」(71.7%)の2項目が7割台で続く。一方、『重視しない』(「あまり重視しない」と「重視しない」の合計)は、「健康づくり」(1.2%)以外は、1割前後である。

少子・高齢社会の高齢期における望ましい生き方は、「友人・仲間との交流を深める」(56.7%)で5割を超え、「趣味やスポーツなどを満喫する」(46.2%)と「自然とふれ合いの中で暮らす」(44.8%)が4割台半ばで、「知識や経験を仕事にいかす」(41.8%)が4割台前半で続く。

### 3 少子・高齢社会に向けた対策

未婚化・晩婚化の原因は、「経済的に不安がある」(73.3%)が7割強と最も多く、「仕事と家庭の両立に不安がある」(51.9%)が5割強、「結婚生活又は家族生活を負担に感じる」(46.3%)が4割台半ばで続く。

子育てに関わる問題点は、「子育てしやすい労働条件が十分でない」(57.9%)と「子育てにお金がかかる」(57.7%)が、5割台後半で拮抗しており、「保育所、幼稚園等の施設やサービスが十分でない」(43.7%)が4割強、「子育てや家事の負担が大きい」(30.6%)が3割で続く。

子育てに関して行政に望む地域への支援は、「保育所や幼稚園などの施設やサービスの充実」(50.2%)が5割で最も多く、「困った時に子どもを見てもらえる地域のシステムづくり」(46.6%)、「産科・小児科の医師確保や健康診査などの充実」(45.9%)、「経済的支援の充実」(42.8%)が4割台で続く。

ワークライフバランスの推進で必要なことでは、「育児休業や介護休暇を取りやすい職場づくり」(63.0%)が6割を超えており、「再雇用への支援」(39.0%)と「地域の保育所や介護制度等の充実」(38.8%)が4割弱で続く。

希望する今後の高齢社会対策は、「公的年金の充実」(66.4%)が6割台半ばと最も多く、「老人医療の確保」(57.7%)が5割台後半、「高齢者の孤立を防止するための地域の仕組みづくり」(45.1%)、「高齢者が暮らしやすいまちづくり」(44.8%)、「在宅介護の充実」(43.8%)が4割台で続く。

将来の社会保障制度のあり方では、「高齢者の給付水準をある程度抑制し、将来の世代の負担をある程度上げる」(33.6%)が3割強と最も多いが、「高齢者の給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない」(30.0%)も3割ある。

#### 4 生活向上感について

「向上している」(5.1%)と「低下している」(42.4%)は、前年度(5.6%、42.6%)より減少し、「同じようなもの」(49.5%)が前年度(48.8%)より増加。

#### 5 生活満足度について

生活全般での満足度について、『満足』(「満足」+「やや満足」43.6%)は、前年度(38.8%)より4.8ポイント増加。『不満』(「不満」+「やや不満」30.4%)は、前年度(36.5%)より6.1ポイント減少し、「どちらともいえない」(26.0%)が、前年度(24.7%、過去最高)より1.3ポイント増加。

生活の個別側面での満足度について、『満足』は「家族との関係」(71.6%)が7割台で最も多く、「住んでいる地域の住み心地」(65.5%)や「家族の健康」(61.3%)、「住居」(60.8%)が6割台で続く。一方、『不満』は「貯蓄などの金融資産」(53.3%)と「所得・収入」(47.6%)で5割前後あるが、他の項目では3割を下回る。

#### 6 震災に対する意識

『起こると思う』(「起こると思う」+「起こる可能性は高いと思う」44.4%)が『起こらないと思う』(「絶対起こらないと思う」+「起こる可能性は低いと思う」35.8%)を8.6ポイント上回る。

『起こると思う』は前年度(45.1%)より減少し、『起こらないと思う』は前年度(30.7%)より増加。



## 7 県政への意識

『関心がある』（「大変関心がある」+「多少関心がある」73.6%）は前年度（65.2%）より8.4ポイント増加し、『関心がない』（「ほとんど関心がない」+「全く関心がない」25.1%）は前年度（32.6%、過去最高）より7.5ポイント減少。

県政への評価では、『やっている』（「よくやっている」+「まあまあやっている」）との評価は、「震災からの復興対策」（54.7%）、「防災対策の充実」（43.1%）、「県政の広報・広聴活動」（39.3%）、「交通網の整備」（35.2%）が上位。

『努力が必要』（「もう少し努力が必要」+「もっと努力が必要」）との評価は、「雇用安定と職業能力開発」（49.9%）、「医療施設の充実」（46.1%）、「中小企業の育成」（41.8%）、「福祉対策」（40.6%）が多い。前年度と比較すると、『やっている』は「防災対策の充実」など11項目で増加し、『努力が必要』は「雇用安定と職業能力開発」など9項目で増加している。